

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

4番バッターということで、皆さん方からいろんなプレッシャーをかけていただいております山口でございます。私に与えられた時間、精いっぱい務めたいと思います。皆さん方には非常に迷惑をかけるかと思いますが、その点はよろしくをお願いします。

私は、今回は農業問題と林業問題をテーマに執行部の皆さん方に答弁をいただきたいと思っております。

これは前回もいたしましたけれども、イノシシは何が原因でふえたと思われるかを、まず最初にお聞きをしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

イノシシについては、ことしは特に出沒の数が多いということで、捕獲の頭数につきましても前回の議会で申し上げましたとおり、大体1年ごとに増減があつておるようですが、ことしは特に多いということで、1,500頭ぐらいの捕獲で昨年の倍ぐらいなつておるということでございます。これは7月から10月までの駆除期間の総数ですが、それで、お尋ねのなぜイノシシがふえたかという問題でございますが、これについて県の担当者がこの間、うちのほうで研修会をした中で言われた中身ですが、まず、森の変化が最近特にあつておるということで……

〔19番「何の変化」〕

森、以前は広葉樹ですね、ドングリとか、そういうイノシシのえさが森の中に結構あつたということで、そのえさがまずは減少をしているということが1つございます。

それと同時に、我々が小学生、中学生ぐらいは、ほとんど昔はまきで米を炊きよつたわけですね。その森林に入る人が少なくなつたというのがございます。

それから、もう1つは里山の変化ということで、特に山間地の耕作放棄地がふえて、そこが格好のイノシシのえさ場になつておるということでございます。

それからもう1つ、イノシシ自身の変化で栄養状態が非常に最近よくなつておると。それから、繁殖能力が向上して死亡率が低下してイノシシがふえておるということをおの間県の担当者の話で聞いております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

森の変化、あるいは休耕地がふえた、あるいは山林の手入れが不足している。これは先ほど松尾議員のほうから話があつた、高齢化になつたがために山に入る人たちがいないという

ことで、非常にイノシシがふえたというような話ですけども、そこで、ここに1つの資料を持ってありますけれども、これは区長各位ということで、市長名で出されてありますイノシシ被害状況調査についての依頼ということで、21年の3月31日までに提出をしてください。この目的は何でしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

先ほどの被害の調査でございますが、昨年10月に、いのしし会議を設置しております。これについては各町の区長会長さん、あるいは農業の生産者、JA、それから行政が組織をした会議でございますけれども、その中で特にことしはイノシシが多いということで、何とか被害を食い止める必要があるということで、その中で21年度の予算にも今回お願いしておりますが、21年度から国の補助をいただいて被害防止をやろうということで、まずその電気さくとか、あるいはワイヤメッシュ等の要望の調査をやろうということになりました。もう1つ、先ほどの被害の調査をやる必要があるということで、これについては各町の区長さんのほうに出向いてお願いをしております。

そういうことで今回被害の調査をしたわけですが、今後、前回質問が出ましたため池とか、あるいは農道とか、そういう被害の箇所についても、この会議を通じて調査をして今後の対応に役立てていきたいということで今回調査をしたということでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

19番山口昌宏議員

**○19番（山口昌宏君）〔登壇〕**

私、前回の一般質問の折に被害をこうむったところは雨水、風も含めて災害と一緒にではないかと。そしたら、災害と一緒にやったら何とか行政ですべきじゃないかということを私は言いましたよね。せっかくこれを出して調査をしてもらうのであれば、何か対応を考えんことには調査した意味がないわけですね。それはなぜかという、意外と調査するについても手間暇かかるわけですよ。今部長の答弁にありましたように、5000分の1ですか5万分の1ですか、5000分の1の図面ですか、に全部書き込むわけでしょう。これ区長さんの仕事なんですよ。書き込んでそれを持ってきなさいと。例えば、イノシシが田んぼに入った。田んぼと言うたら、なかなか都会の人間のような感じがしますけれども、田んぼに入らざるは、その田んぼ全部が被害で全然収穫できんわけですね。そしたら、収穫ができんところは補助ばすつとですかと。ただ調査するだけないば、だれもすつですもんね。その調査をした後どうするかが行政の仕事だと思ふわけですよ。もう一遍答弁をお願いしたいですけど。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

### ○前田営業部長〔登壇〕

今回の調査は今、途中経過でございますけれども、今現在面積で15.8ヘクタールの被害額、これは農協の共済の単価で掛けますと約1,900万円程度の被害があっているということで把握をしております。

それで、今後のこれの使い方でございますけれども、先ほど言いましたように、今後のいのしし会議の中で被害が出たところの例えば、補助事業、そこら辺、なかなか難しいものがございますので、調査をしてどれくらいの被害があるからどれくらい金がかかるということで、例えば、市の単費でできるかでけんか、そこら辺の検討もする必要があるということで考えていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

### ○樋渡市長〔登壇〕

イノシシ対策は本当にやらなきゃいけないというふうに思っておりますので、この調査結果を踏まえて市単費の必要があれば補正でこれは十分組む必要があると、組みたいというふうに思っております。

あわせて部長答弁に補足いたしますと、実際地域に住んでおられる方々はどこにイノシシが出てくるかというのは十分御案内です。しかし、市全体で見たときに、この辺が多く出沒するとか、あるいは経路というのはその地区以外の方々はなかなか御存じじゃないといったことから、全体的な把握の意味として今回は調査を、ちょっとこれは区長さんたちに多大な御負担をかけることは心苦しく思ひますけれども、1回はする必要があるというふうに認識をしております。

以上です。

### ○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

### ○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

確かに今市長、部長が答弁されたように、なかなか難しいと。しかし、さっきの4番議員じゃないですけれども、高齢化が進んでいる中でこれをどうにもできないというのが現状かと思ひます。

そこで、私は皆さん方御承知のとおり、山に行ったり海に行ったりといつも回っておりますけれども、さっきいみじくも言われましたけれども、部長からの話の中で、例えば、ナラの木、ナラの木の手入れをした下はイノシシはほとんど入っていないですね。この間ある人から聞いたんですけれども、日本の植林率、要するに杉檜、杉檜を植える率というのは世界でも一番、要するに人工林は世界でも一番。きょう午前中の30番議員の武雄を世界遺産にという話なんですけれども、人工林として武雄で小さかこと言わんで日本全土を世界遺産にし

ていいくらいの植林率だということだそうです。しかし、植林は世界一かもわかりませんが、今武雄市の中で植林をされている面積が幾らわかりませんが、武雄市は今、山の中に入って見てもらえばわかると思いますけれども、木材として活用できる木というのは、それこそ10%は恐らくないと思うわけ。それくらいに荒れております。

そして、結局、きれいな山はどがんとかなとずうっと見て回ったら、要するに例えば、私は東川登の内田区というところですけども、区有林、区が持っている山、この山だけはきれいな山なんです。個人の山というのはまずないですね。大体2間に1本立つぐらいの——2間と言うたらちょっと難しいですね、4メートルに1本ぐらいで杉檜は植えると。最終的には間伐をしていくというようなのが現状の営林署の指導なんですね。そいぎ、今そういうふうな山の中にはイノシシは絶対いません。

そこで、ナラの木だってしかりです。ナラの木も落葉樹でしょう。落葉樹はきれいに落葉をしてしまったらイノシシ入らんですね。イノシシが掘らんですね。広葉樹、要するに広葉の落葉樹であれば入らない。しかし、常緑、要するに一年じゅう緑の山というのは入りやすいですね、イノシシも。そういうことで、部長がおっしゃったように、なかなか山の手入れができていないということでイノシシがふえたのかなと。要するにナラの木、シイの木、カシの実、こういうふうなどが少なくなつてずうっと里に下ってくると、植林がふえたために災害もふえてくるというようなのが現状かと思えます。

そういう中で、武雄市に今林道と言われる路線延長がどれくらいあるのかをまずお尋ねしたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

これは19年度末の現況でございますが、延長でいきますと7万9,217メートルでございます。路線的には55路線ございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

林道の延長が7万9,200というたら約80キロ、ここから長崎までぐらいの林道が武雄市に今あるわけですね。その80キロの中で、私が何日か前に犬走船ノ原線、あるいは森蓮和線というのが山内にあるわけですね。山内の議員、御存じですか。（「はい」と呼ぶ者あり）その林道に行政の方、このごろ行かれたことありますか。ちょっと答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

私自身は行ったことございません。ほかの職員についても、そういう名前の話は聞いていないようでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

船ノ原犬走線というのは道路幅員が4メートル、それに舗装もきれいにされております。U字溝整備もぴしゃっとされております。そこがですよ、今どうしているかといいますと、私はきのうおとといでした、二、三日、日曜日ですか、日曜日にちょっと行ってきました。そしたら倒木はしているわ、落石はしているわ、見るに耐えないような林道なんですね。私がなぜこう言うかと、今まで金をかけて林道整備をしてきて活用がなされていない、管理がされていない、それを言いたいわけですね。何で——これは本当に舗装まできれいにしてああとですよ。U字溝も整備してああとですね。そして、もう1ついいことがあそこはあるんですよ。それは何かというぎですね、林道わきに杉檜を植えてあるところがあるわけですね。その杉檜の見事なこと。ただ、ちょっと密集して、これは半分ぐらいに間伐をしなければいけないかなというような杉檜がきれいなところがあります。

私がなぜこれを言っているかという、行政の方に私が提案したいのは、執行部の方よく聞いてください。私はどがんですかね、林道整備隊ぐらいはつくってですよ、行政が指導をして、今市長はレモングラス課とか、いのしし課とかつくっておられますね。それと一緒にような、要するに林道を挟んだ上下でも、例えば、30メートルなら30メートル、40メートルなら40メートルでもいいです。それを整備するような課をつくったらいかがかなというのを提案したいんですけれども、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

課の設置については、十分にちょっと考える必要があるんですね。レモングラス課についても、いのしし課についても熟慮に熟慮を重ねていろんな人の意見を聞いてつくった経緯があります。したがって、すぐ課の設置には結びつかないとは思いますが、少なくとも御質問をずうっと聞きながら、林道、あるいは林道に付随する森林の整備は必要だと思いますので、専門の部署の設置について前向きに検討をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

これは決して皆さん方がどうのこうのじゃないんですけれども、行政の方の中にも、おりゃ外に出てごちゃあば動かしたほうが能力は発揮すつとこいにゃあて、ひよつとすつぎ思う

た職員もおられるかもわからん。そういうふうな方を募ってでもですよ、これはする価値があると思うわけですよ。なぜかというんですよ、80キロも林道をつくっておきながら、率でいうと約40%ぐらいはもう舗装ができていますね。今まで金をかける分かけとって何も活用せんないば何のための林道だったのか、何のために今まで皆さん方が汗水を垂らして税金を入れて、その税金でつくったのか。活用をして初めて税金が生かされるわけですね。そういうことを考えれば、ぜひこの問題は取り組んでいただきたい。この林道の荒れぐあいを見ながら、ここをもう少し何とかすれば、ひよっとすつき観光にも役立つのではないかなと思うわけですね。

例えば、今この議場からは見えないですけども、北側に出てみれば林道が見えますよね。あの林道だって舗装も何もできとらんですね。そして、行ってみればイノシシが掘った穴とか崩した土手とか、そういうふうなのが目につくわけですね。

ここにちょっと生まれて初めてパネルを持ってきましたけれども、（パネルを示す）ちょっとどっちが上か下かわかりにつかですけども、こいはイノシシが掘った跡ですね。こいがイノシシが掘った跡なんです。これもそうです。道の下ですね。ここが農道なんです。畑のこけ見えよるけん、ここは農道です。その下はイノシシがこう掘とっ。こういうふうな形なんです。さっきの話じゃなかですけども、こいば見てですよ、個人さんに「あんた補修ばしんしゃい」と言いきいですか。個人ではまず無理なんです。だからこそ行政でしてくださいというのはその辺なんです。

そういう中で、やっぱり林道の整備をするということはですよ、林道の整備をして山の上下、要するに林道を挟んだ上、下の整備をずうっとしていけば、これは行政の方にあんたたちが払いんしゃいというわけやなかとです。指導者となってしてくれんですかという希望なんです。例えば、観光面から言うたらですよ、私、資料を取り寄せてもらいましたけれども、これは白神山地、要するに世界遺産に登録をされた白神山地と、それから屋久島とあったですね。一緒に登録をされたんですけども、白神山地は、この資料に1万6,971ヘクタールが認定をされたと書いてありますけれども、実際はですね、例えば、青森県の八甲田山から奥入瀬、十和田湖で、あの辺を全体的に含めたのが世界遺産だと自分たちは思っていると青森市の市長さんは言われているんですね。その青森市だってですよ、ただ単にブナの原生林があったわけじゃないんです。ここ何年かで16万本ブナの木を植えました。ブナの木は広葉、落葉樹ですね。常緑じゃないですね。それでイノシシも何も来んです。そいぎ、紅葉の季節にですよ、例えば、奥入瀬から十和田湖周辺、八甲田山周辺、岩木山、それから白神山地、観光ルートとしては物すごく人出が多いですよ。そこまでまねせろとは言わんですよ。しかし、観光面で、この林道の80キロある中の何らかの形で観光に結びつけることができないのかどうか、答弁できますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

恐らく総延長の90キロ弱の中で観光に生かせるのは私が知る限りは富津林道、すなわち上西山の福和のほうから川良のほうに抜けていくあの林道、あれはたしか五、六キロあったと思います。これは、私は観光の林道になり得ると思って、それだけのポテンシャルは高い。すなわち物すごく風景がいい。そして歩きやすい。そして見事な杉檜がやっぱり点在をしているという意味からすると観光林道として成り立つ可能性は非常に高い。私も何度か今ウオーキングで行っておりますけれども、これはなり得るなというふうに思っております。

そのほかについては、例えば、武内のあのお寺、ちょっと何というお寺か、あのお寺の近くの林道、これもお寺の景観と相まって観光林道になり得る可能性は非常に高いと思っております。

先ほど議員から御指摘のあった杉原議長が住まれる船ノ原のその林道はまだちょっと行っておりませんので、何とも言いようがありませんけれども、少なくとも私が知る限りこの2つはなり得るなというふうに思っております。ただ、全然ちょっと整備がされておられませんので、その整備の仕方というのはちょっと考えなければいけない必要があるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

確かに富津林道に行かれたらわかると思いますけれども、川良のほうから車ではちょっと今のところ行けないかと思っておりますけれども、私はあの富津林道だって、もう何遍となく車で行って、がしゃんがしゃんがしゃんしながら行って、今ちょうど富津林道というのはツブキの多いところなんですね。今行くとツブキのちょうどおいしかところのいっぱいあるような林道なんですね。そして、上のほうから見たら武雄町内が一望できるような場所がたくさんあります。ただ、あそこはイノシシがひどく荒らしとるです。特に福和寄りのカーブのところにもウソウ竹林があるんですけども、そこは特にイノシシが荒らして、恐らく下のほうに雨が降ったら濁流が流れるかと思っております。

だから、整備をしてびしゃっとすればイノシシは来ないということなんですね。そうでしょう。ですね、部長、一番初めに言われたように。そういうことですので、その辺をできんできん、防護さくだけするじゃなくて整備ばすuggiイノシシは上さん行く。下に下って来んというような状況なんですね。だからこそ今が、さっき申しました森林整備隊ですか、森林整備課ですか、そういうふうなを含めて行政として考えてほしいと思っております。

この点についてはこれで終わりたいと思っておりますけれども、次に、災害対策について質問をしたいと思います。

災害対策も特に水害、私は東川登で、橋の山崎議員には非常に恐縮なんですけれども、今までですね、私が生まれる前からでしょうけれども、こう言われよったですね。「橋の一遍つからんぎにゃ梅雨は明けんもの」て。そして、もういっちょ言われよったとは、「ビッキの小便しても橋はつかあもの」て昔は言われよったですね。しかし、今回——今回というですか、市長初め執行部の皆さん方の努力のおかげで鐘突川、あるいは東側の水門のところにポンプが増設をされました。しかし、ポンプは増設されましたけれども、ポンプを増設してポンプをすべて稼働したのために今度は橋じゃなくて北方、大町、白石、この辺がつかれるようになったわけですね。要するに激特で六角川を改修したために、昔は六角川というのはですよ、橋の二俣、沖永、あの辺がつかるときには、普通水というのは上から下に、低いところに流れるですね。ところが、あそこの場合は下から上に流れてくるわけですよ。つかれる水というのは二俣のほうから、あそこは無堤防だったですから昔は堤防がありませんでした。それで下からずうっと水の上がってきて、じわあとつかれるわけですね。そういうふうな状況だったんです。ところが、激特で堤防をつくってしたのために、もう水がきれいに流れるようになって今度は下のほうがつかれるようになった。自分のところだけ、例えば、極端な言い方をすればですよ、我がうちだけよかぎ隣はどがんでんよかもん。それでは行政として私はちょっとまずいかなと思っているわけですよ。自分たちのところがよくなったら下のほうもよくなって初めてしかるべきと私は思っております。

そこで、二、三日前テレビを見ておりました。そいぎ、テレビの中で埼玉県と大阪府やったですかね、地下ダム——ダムとまではいかんでしょけれども、地下の調整池、何か調整して地下に入ってみたら、20メートルぐらい下から50メートルぐらいまでに掘って、そこに埼玉のが13万トンぐらいやったですかね、そして、大阪の辺も15万トンぐらい。私に言わせればですよ、たかだかそんなくらいで埼玉県のつからんごとなろうかいと。そいぎ、川を3つ挟んどったから、そんなくらいぐらいでできる代物ないばと思うたわけですね。橋なんていうのはそういうわけにいかんですね。白石だってそうです。やっぱり米蔵ですから。

そこで、ちょうど何年前に遊びに来んということで私は採石場さんに遊びに行きました。そして今、採石場とっているけど、このあと、まだずうっと幾らかは下げるという話でしたけれども、現場に見に行ったときに、「こい、どのくらいたまるとか」って聞いたとですよ。矢筈ダムが130万トンですかね、矢筈ダムが130万トンたまる。そいぎ、「どのくらいたまる」と聞いたら、「こいさいて、今のところ400万トンくらいたまるもの」と。矢筈ダムの約3倍たまる。そいぎ、そいば見たときに、あいた、こりゃひよっとすつき調整池で、要するに石をとった跡ですから埋め戻して返さんばいかんというのが普通常識なんですよね。しかし、これを逆に調整池として使用できないかなと思ったものですから、市長にこい調整池としてどがんやろかという話を持っていったわけですね。そいぎ、そのときに「ほんなごとですよ」とは言いながらも、市長が金出すわけじゃないですから、国土交通省との話です



から、それで、そのときの話の後、市長は国土交通省と話はされましたか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

河川局長と話をしました。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

河川局長と話をされたとき、河川局長さんはどういうふうな話で、答えを河川局長さんからいただかれたのかが、その辺がちょっと、話ただけで「しました」と言われて、そいぎ「中身は」てまた聞かんばらんけん、中身は何であったですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私が河川局長と話をする前に、武雄市常襲水害地対策促進期成会の杉原議長、樋渡常襲水害地・環境問題特別委員会の委員長さん、そして大渡議員が行かれています。それで、執行部から古賀副市長が行っていただいておりますけれども、その中で、先ほどありましたその調整池の話について、河川局長から非常に前向きな回答があったということを直ちに報告をいただきましたので、それを確認すべく、その1週間後にまちづくり部長と私が河川局長のほうに出向きまして、もう少し詳細の詰めをしたところでありまして。その中で河川局長がおっしゃいましたのは、これは非常にいい考えだということでありまして。コストもかからないし、基本的には環境にそんなに負荷がかからないということ、それと即効性があるということでありまして、これはぜひ国土交通省、本省としても前向きに考えたいということでありました。したがって、今後、私どもといたしましては、あと鉱業権の設置とかあるんではないかとか、あとさまざまな周辺地の皆様方の御感情は大丈夫かといった、それをちょっと調べてほしいということもいただいておりますので、それは行政としてきちんと確認をしていきたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、今後、国土交通省の計画には河川の基本方針というのがあるそうです、中・長期的な。そこにのせられるかのせられないかが一つのポイントであるというふうに聞いておりますので、河川局長のお言葉を信じて、河川の基本方針並びにその後に基本計画というのができます。そこにきちんと位置づけられることができるように、私たちが努力をしていかなければいけないというふうに思っております。

その際申し上げたのは、武雄市はお金がありませんということを申し上げましたので、ぜひこれは国土交通省でモデルプランとして主導的にやってくださいということを申し上げた

ところ、河川局長は「うん」とおっしゃいました。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

のるかのらないかで大きく違うということですが、のせるのが市長の仕事と。そのための総務省出身なんですから。（発言する者あり）相手は国土交通省ですが、同じ省ですから横のつながりが、恐らく同級生でもいっぱい国土交通省にもおられるかと思しますので、ちょうど働き盛りの同僚がおられるかと思しますので、その辺のところの努力は惜しみなくやっていただきたいと思ひます。

実はあそこは六角川の上流で、要するに400万トンというのは、今の溝ノ上線の市道の高さを基準にして大体400万トンぐらいたまるという話なんです。ということは400万トンが例えば350万トンで、要するに六角川の河床、川の底の高さを見ても350万トンぐらいたまるんじゃないかと思うわけですね。

そいぎ、あそこに転倒堰をつくる。私が指導するわけにいかんですが、転倒堰をつくって道路をわったら水は自然に入るわけですね。そいぎ、金も恐らくダムをつくるのに、例えば、500億円要ったというような話はたくさん聞きますけれども、あそこは500億円の10分の1でも十二分にいけるんじゃないかと思うわけですね。

そしてもう1つ、あの山の向こう側は保養村になっています。その水を利用して今度は観光資源に役立てたらどうかと思うんですね。いつか私は言いましたよね。今——固有名詞を出していいのか悪いのかわかりませんが、大坪採石さんは、それこそ救急医療じゃないですけど、1年365日、24時間稼働させて水を揚げておられます。六角川のほうに水をポンプアップされておりますけれども、あれを逆にですよ、中段ぐらいに中継のポンプをつけて反対側、要するに保養村のほうに流す。そして、例えば、境のところに石積みのような格好をつくって滝をつくると。そいぎ、保養村に今せせらぎプロムナードとかいうのがありますよね、管轄はどこですかね、せせらぎプロムナードの水は、そいぎ今潤沢に流れよっかどうか、ちょっと確認をしたいと思ひますけど。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

そのせせらぎについては、上のほうは蛍池といいまして、そのため池から来とると思いますが、大雨のときは多いか知りませんが、通常は水量としては少ないというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

あそこの上の蛍池と言いますとは、もとの池の上ため池というのですもんね。あの池の上ため池の上は取水面積が小さかですね。あるはずがないというのが事実なんですね。かといって、蛍池のほうも1周くると回って歩いてこられるような状態じゃないわけですよ、今。そういう中で、あれを滝でもつくって潤沢に流れるようなせせらぎプロムナードをつくったら、それこそ、この間、きのうですか、きのうの一般質問の中でどなたやっただすかね、モーターショーがあったと。そのモーターショーは物すごく盛況であったと。モーターショーがなくても水を潤沢に流して子どもたちが一日じゅう遊べるような施設をつくったら、もっともって保養村の活用方法ができるんじゃないかと思うわけですがけれども、観光の面からどうですか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

先ほどの調整池についても私も採石の担当ですので、何回か見たことありますが、本当にびっくりするぐらいの深さ、大きさございます。それも観光の目玉になるような調整池と思えます。

それから、もし水がたまってそういう調整池になれば、先ほどのポンプアップを考えて、こっちのほうに水を流すというのも一つの考えだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今のせせらぎプロムナードとかというあの川、あれはクレソンの養殖場のごたあ感じですよもんね。ここにおられる皆さん方も、あそこに行ってクレソンをいっぱいって食べてください。クレソンで何か知っておでしょう。クレソンで西洋セリです。洋ゼリというですか、日本語で言うぎ、それ物すごく多いわけですね。あれしゃぶしゃぶで食べたらおいしいそうです。

そういうことで、さっきの市長の話じゃないですけども、あるものを活用して武雄市をやっていくと。道路だって新しい道路をつくるのではなくて、今ある道路をいかに整備するかという話なんでね。そしたら今ある、例えば、あそここの調整池として活用できるかもわからない、あそこのあるものを活用して水害をなくし、武雄市浮揚のために努力をする、それが行政の役割であり、行政の仕事だと思っております。市長、聞きよおですか。

〔市長「はい」〕

だから、さっき市長に言いましたように陳情も今まで以上に頑張ってください、武雄市

が幾らかでも少なく金を出して浮揚のために役立つように努力をしていただきたいと思いま  
す。

終わります。